

会 議 録

1 会議名

第5回上越市総合計画審議会

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 第7次総合計画の全体構成について（公開）
- (2) 基本計画について（公開）
- (3) 重点テーマについて（公開）
- (4) 計画の推進について（公開）

3 開催日時

令和4年8月22日（月）午後1時30分から3時30分まで

4 開催場所

上越市役所第一庁舎4階 401会議室

5 傍聴人の数

4人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委員：大谷和弘、古川政繁、小泉美佐子、林泰成、山縣耕太郎、市川克巳、柴野嘉紀、堀尚紀、阿部利夫、上羽亮、高橋慶一、高橋信雄、中條美奈子、羽深真一、藁和章、金子彰、飯塚多佳志、大山賢一、関原英里子、青木ユキ子、江村奈緒美、徳道茂、山崎活美
- ・事務局：池田企画政策部長、大島企画政策課長、志賀参事、内山副課長、海津係長、新保主任、丸山主任、伊倉主任、上石主事

8 発言の内容（要旨）

(1) 開会

会長あいさつ

【林泰成会長】

本日はご多用の中ご出席を賜り、感謝申し上げます。

第5回となる今回は、まず市民意見交換会の開催概要や前回の第4回会議や会議

後に事務局にお寄せいただいた委員からのご意見・ご質問への対応について、事務局から報告があると聞いている。

その後、基本計画のほか、第7次総合計画の前期基本計画において、横断的かつ重点的に実施すべき取組としての重点テーマについて審議いただくこととなる。委員の皆さまの専門的な立場からの意見をいただきたい。活発な議論をお願いする。

(2) 報告

【事務局（海津係長）】

第2回まちづくり意見交換会の開催結果、まちづくり学生ワークショップの開催結果、総合計画審議会における意見等の対応について、参考資料1、参考資料2及び資料1により説明。

(3) 議事

ア 議題(1) 第7次総合計画の全体構成について

イ 議題(2) 基本計画について

ウ 議題(3) 重点テーマについて

【事務局（新保主任）】

議題(1)～(3)について、資料2～4により説明。

【中條美奈子委員】

施策「切れ目のない子育て支援」にある施策の柱のタイトルだけをみると、子育て世帯への経済的な支援しか取り組んでいないように見える。子育てそのものへの支援なども含んでいることが分かるようにするため、施策の柱「子どもの育ち支援の充実」については、「安心して子育てできる支援の充実」などとしてはどうか。

【事務局（大島課長）】

担当部局と相談しながら、表現について検討する。

【江村奈緒美委員】

同じく施策「切れ目のない子育て支援」について、家庭への支援についての記載はあるが、子ども自身への支援も記載する方がよいと思う。虐待に限らず、小さいころからつらい思いをして、死にたいと感じているような子どももいる。

また、施策の柱「こころの健康サポートの推進」に関連して、上越市の自殺予防対策推進計画を見ると、高校生以上を対象としているようだが、中学生以下の子どもの自殺対策もどこかに記載してほしい。

【事務局（大島課長）】

事業の詳細については分野別の個別計画に記載されることになるが、総合計画においてどこまで記載するかは担当部局とも相談する。

【大山賢一委員】

子育てに関連した話として、課題や問題が発生してから対応していることが多いように思う。予防的に、子の親に対して、どういう家庭をつくっていくべきかを教育する「親育て」が重要である。

【山崎活美委員】

自殺に関し、「正しい知識の啓発」とあるが、何を指しているのか。正しい知識を持ってもらうために、どのようなことを実施するかを記載するよとよい。

【事務局（大島課長）】

分野ごとの記載内容について、詳細までは当課として承知していない部分もある。担当部局へご意見を伝える。

【金子彰委員】

「自殺を未然に防ぐ」という記載があるが、その前段階で対応するメンタルヘルスに力を入れるべきではないか。

【高橋信雄委員】

施策「地域に根付く産業の活性化」と施策「新産業・ビジネス機会の創出」の目標にどちらも「外貨」という文言が出てくる。前者は市外の資本、後者は円以外の通貨のことを指しており、どちらも重要であるが、市民に違いが分かるように表現を検討してほしい。

【高橋慶一委員】

施策「地域医療体制の充実」の中で、地域医療センター病院と市立診療所の連携が挙げられている。市が行う取組として、この二つを挙げているのは理解するが、県立病院や個人のクリニックも含めて地域医療が成り立っており、この二つだけを取り出して連携するといっても成り立たないと思う。

また、医師の確保に必要なことは、雇用条件と症例がある一定規模以上の病院であることだが、特に若い医師にとっては雇用条件よりも、症例経験を積むことができる環境が重要である。

医師と同様に看護師も担い手の確保が必要である。市内には看護に関する専門学

校や大学があるが、卒業後に市外へ流出する割合が高く、魅力ある就職先が求められている。さらに学校自体も定員割れとなっており、看護師を職業として選択する若者が増えるような取組を行うべきである。

【金子彰委員】

施策「地域医療体制の充実」の目標にある一つ目の「持続可能な医療体制の構築」と二つ目の「切れ目のない医療の提供」とは、内容が重なっているように見える。

【高橋慶一委員】

目標の二つ目に主語がないため、分かりづらくなっている。また、地域医療ネットワークの充実に関しては、病院間の連携はすでに一定の水準にあり、日常的にはクリニックに通い、症状が悪化したら大きな病院へ移るといった体制が構築されている。今後、いかに維持していくかということになるのではないかと。

【金子彰委員】

地域医療センター病院と市立診療所の連携については岐阜県の事例を参考にしたと思われるが、内容を分かるようにした方がよい。

【高橋慶一委員】

診療所の医師が高齢化していることを背景に、人事や経営も含めて一体的に運用するようなことを考えているのではないかと。

【事務局（大島課長）】

記載内容については精査したい。高橋委員のご意見にあった看護職員の確保については、6次総合計画から文言を追加しており、市としても人員不足は問題視している。

【徳道茂委員】

施策「地域に根付く産業の活性化」において、IT人材等の確保・育成について記載があるが、IT人材にも、ITの利用を支援するための人材と、コンテンツを作る人材がいる。高校生等への育成支援として考えたときに、難しいとは思いますが、市がIT系の高校を創設することも一つの手段である。

また、施策「雇用機会の拡大と就労支援」に、若者や女性が働く場所を確保するという意味合いで、「就労機会の拡大」の記載を検討してはどうか。

このほか、施策「交通ネットワークの確立」に冬期の交通網の確保に関する記載があるが、豪雪による都市機能の麻痺は大きな損失となることから、カメラの設置等に

より道路やまちなかを見える化し、片側通行やう回路設定などの対応ができるようにしてはどうか。

【事務局（大島課長）】

市が IT 系の高校を創設することはハードルが高いが、高校生への IT に関する専門的な教育は必要だと考えており、高校生に対する支援については検討したい。

また、雪対策については、デジタル化が進展する中で、除雪車の動きはリアルタイムで見られるようになっているが、その映像についても今後、公開されるようになっていくのではないかと考えている。

【飯塚多佳志委員】

施策「観光振興の強化」の目標に「周辺自治体と連携した情報発信」の記載があるが、地元企業とも連携してほしい。観光客に限らず、営業などで訪れる人もターゲットとすべきである。

【大山賢一委員】

地域の事業者のネットワークを大切にしながら観光を進めていくことは重要である。

【山縣耕太郎委員】

施策「大規模災害への対応力の強化」や施策「災害に強い都市構造の構築」においては、災害時だけでなく、普段から周辺自治体と連携体制を構築しておくことが重要である。

【堀尚紀委員】

徳道委員のご意見にあった除雪の情報発信について補足だが、国では国道 1km ごとにカメラを設置し、一部をホームページ等で公開するとともに、除雪情報を閲覧できるアプリも作成しているが、登録者は倍々で増加している。ハード整備はもちろんだが、ソフト対策も充実していく必要があると考えている。

【徳道茂委員】

国道・県道・市道など、管轄が違っていると情報を一括で受け取れないのが現状である。横断的に情報発信できるのが理想であり、行政間のネットワークが構築できるとよいと思う。

【小泉美佐子委員】

福祉の分野で訪問看護ステーションに関する記載がない。6 次総合計画では記載さ

れていたと記憶しているが、病院だけでなく在宅医療も取り上げてもらいたい。

【中條美奈子委員】

以前の会議でも発言したが、男性の育休取得に関連する記載がない。施策「男女共同参画の推進」に記載してはどうか。

【堀尚紀委員】

重点テーマの設定に当たって、重要課題として挙げている自然災害の激甚化に対応した重点テーマがないなど、課題とテーマとの関連性が分かりづらい。

【山縣耕太郎委員】

災害だけでテーマを設定するのが難しいのであれば、重点テーマの「②地域活力の創造」の中で「災害への対応力の向上」などを入れ込んではどうか。

【事務局（池田部長）】

自然災害の激甚化への対応については、その要因となる地球温暖化への対策やソフトインフラというべき地域コミュニティの維持に軸足を置く中で、「②地域活力の創造」や「④脱炭素社会の形成」を設定した。課題との関連については説明が足りない部分もあるが、ご意見を踏まえ、記述内容を整理していきたい。

【大山賢一委員】

重点テーマは前期基本計画の計画期間4年間に重点化する取組ということだが、4年後の終点が見えない。また、重点テーマを設定する背景として、市の複数の組織が横断的に取り組んでいくためでもあると思うが、そういったことをより分かりやすく示してもよいのではないか。

重点テーマに付記されている「ヒューマン」、「コミュニティ」などの文言は分かりにくいように思う。文章中でも「ひと」と「人」、「まち」と「地域」など、似た言葉が多く、整理が必要である。

【事務局（池田部長）】

いずれの重点テーマも4年間で終結するのは難しいと考えているが、当面取り組むべきこととして挙げたものである。ヒューマンなどの表記については必要性を検討したい。

【山縣耕太郎委員】

重点テーマについて、「④脱炭素社会の形成」は上越市に限った課題ではないことから、上越市で取り組む理由をもう少しアピールすべきである。持続可能な社会の

形成のみならず、市そのものの価値を高めることに繋がることを伝えてはどうか。

エ 議題(4) 計画の推進について

【事務局（新保主任）】

議題(4)について、資料 5 により説明。

【大谷和弘副会長】

評価検証について、市民の声アンケートの項目が主観的判断に基づき評価されるものが多いと感じる。客観的に数値で判断していくべきではないか。

【大山賢一委員】

PDCA は目標達成のために実施するものであり、目標に対してどこまで達成できたかが重要となる。4 年後の評価検証だけでなく、単年度ごとの評価も必要ではないか。

【事務局（大島課長）】

施策ごとの数値目標については、次回提示する予定にしている。客観的に評価できる目標を設定していきたいと考えている。評価についても単年度ごとに評価をしながら取り組んでいく予定である。

(4) 閉会

企画政策部長挨拶

【池田企画政策部長】

貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。本日は基本計画や重点テーマ等について事務局の考え方を示し、様々なご意見をいただきました。同時に市議会においても総務常任委員会の調査事件として、意見交換を実施している。議会とも同時並行的に議論を進めながら、総合計画をより良いものにしていきたいと考えているので、ご理解願いたい。

今後 10 月にパブリックコメントを行い、一回目の区切りと考えているが、その内容について、第 6 回審議会の中でまとめていただけるとありがたい。引き続きの協力をお願い申し上げます。

(5) その他

【事務局（内山副課長）】

次回開催日程等の事務連絡。

9 問合せ先

企画政策部企画政策課企画調整係

TEL : 025-520-5625

E-mail : kikaku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。